



## 関西 3 支部新春合同例会のご案内

### 「もしドラッカーが大学図書館をつくったら」

#### ～ ワークショップ ～

- ◆ 日 時：2012 年 1 月 14 日（土）13：30～16：30（13:15～受付開始）  
（終了後、懇親会を予定しております。）
- ◆ 場 所：京都市国際交流会館 第二会議室（地下鉄東西線蹴上駅 徒歩 6 分）  
アクセス：<http://www.kcif.or.jp/jp/access/>
- ◆ 講 師：市川 充氏（アミュレット株式会社代表取締役）  
〈略歴〉  
1967 年 東京都生まれ、1989 年図書館情報大学図書館情報学部卒業、1993 年成城大学経済学部卒業、ドラッカー学会会員、アミュレット株式会社（旧社名市川充商店）代表取締役。同社にて Linux のシステム開発、商品開発に携わり、現在も活動中。2007 年より IT 事業におけるグループワークに興味を持ち、筑波大学知識情報図書館学類、中央大学理工学部経営システム工学科、において、演習支援を行い、好評を得ている。
- ◆ 内 容：  
ドラッカー学会会員で図書館情報大学 OB の市川充氏が、筑波大学知識情報図書館学類、中央大学理工学部経営システム工学科等の演習で好評を博しているグループワークのエッセンスを体験していただき、新しい機会に焦点をあてた思考法を訓練します。
- ◆ 参加費：無料
- ◆ 申込期限：2012 年 1 月 10 日（火）
- ◆ 申込方法：下記の専用申込フォームからお申し込み下さい。  
大図研関西 3 支部新春合同例会専用申込フォーム  
<http://www.daitoken.com/kyoto/event/20120114.htm>  
※申込み多数の場合、会場の収容人数を考慮し、早めに締め切らせていただく場合があります。

#### [目 次]

関西 3 支部新春合同例会開催のご案内	…	1
信頼され、必要とされ、人が集まる場であり続けるために	…	2
— 学術情報基盤として、新たな存立意義の確立に挑戦する —	大綱浩一	
京都支部のセミナー企画に参加しませんか？	…	5
連続企画：わたしの図書館紹介します！	…	6
紹介番号 2 滋賀医科大学附属図書館紹介	寺升夕希	

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：[kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com) （大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

## 信頼され、必要とされ、人が集まる場であり続けるために

### — 学術情報基盤として、新たな存立意義の確立に挑戦する —

大綱 浩一

この文章は、筑波大学主催「平成 23 年度大学図書館職員長期研修」において、大綱が提出したレポートに一部、加筆修正を加えたもので、研修の要約ではないことを申し添えます。

#### 1. はじめに

くしくも、今年 2011 年は情報社会の進展、特にネットワーク系メディアの登場に伴う「図書館」の社会的機能縮小の必然性(\*1)が論じられてから 10 年目の、節目の年に当たる。この間、大学図書館は学術情報基盤として電子的図書館機能を充実・強化することで、一定、新たな存立意義を確立してきた。

そして今、大学の教育機能に対する社会的要請の急速な高まりを背景に、ラーニング・コモンズという神話の下、成長する有機体として学習支援や教育活動への直接の関与という新たな存立意義の確立に踏み出そうとしている。

このレポートでは、新たに確立しようとしているラーニング・コモンズとはどのような神話なのか(=目標設定)、そしてラーニング・コモンズへ至るにはどのような道歩んでいけばよいのか(=現状分析と方策)、考えてみたい。

#### 2. ラーニング・コモンズという神話

ラーニング・コモンズの「ラーニング」は「学習」を指すと思われるが、「コモンズ」は何を意味するのか。

「[NPO] 幻想と現実(\*2)」によれば、1992 年に「コモンズ」というコンセプトがローマンによって提唱されたとある。また、そのコンセプトの原点である、古代ギリシャの「Kinonia」は次のように定義されるとある。(1)参加者の参加、提出の自由が認められ、(2)参加者は共通の関心/目的(メジャー/マイナー、長期/短期)を持ち、(3)参加者は(人材、資金、知恵)などの資源を共有し、それをもとに協働する、(4)参加者は相互扶助し、(5)社会的関係はフェアネスを基本としている。さらに、資源提供者、NPO、受益者は同じ「コモンズ」の構成員で、それぞれどこか、市場内外の区分の必要性もないという大胆な提案であるとしている。

長らくラーニング・コモンズとクリエイティブ・コモンズはどこが共通しているのか、さっぱり分からなかったが、上記「Kinonia」の定義を見ると、その共通点がよく理解できる。

このローマンによって提唱された「コモンズ」というコンセプトを援用すれば、学習という共通の関心/目的を持ち、上記「Kinonia」の定義を満たすような共同体であれば、それがラーニング・コモンズであるということになる。共同体の置かれた環境に合わせて、その実装は必然的に多様化することになるであろうが、この本質を見誤らなければ、共通認識の下、共に正しい方向に歩んでいけるのではないだろうか。逆に、実装(=手段)に拘泥すると足を掬われることになるかもしれない。電子図書館の初期には著作権処理が大きな課題と考えられていたが、今日の電子情報資源では、制度論や技術論ではなく、出版社のビジネスモデルの移行によって、この課題がクリアされたことは記憶に新しい。この教訓はその可能性を示唆しているように思う。

なお、「ラーニング・コモンズという神話」という見出しは、バーゾールの「電子図書館の神話(\*3)」に準えたものである。1990年代あれほどよく耳にした「電子図書館」という言葉だが、最近ではほとんど聞かなくなった。それは電子的図書館機能が当たり前のものとなり、「電子図書館」という文言が持つ魔力をもちはや必要としなくなったということではないだろうか。

ラーニング・コモンズの場合もまた電子図書館同様、草創期には、そうした文言や文言によって象徴されるカリスマ的物語が人を惹きつけ、実現に駆り立てる原動力となるに違いない。ラーニング・コモンズを当たり前のものにできれば、ラーニング・コモンズという文言は消えてなくなるかもしれないが、そこまで深化させることができれば、リサーチ・コモンズというコンセプトの扉も見えてくるかもしれない。そして、その扉を学術情報流通の変革に繋げることができれば、理想だと思いませんか。

### 3. ラーニング・コモンズへ至る長い道のり

#### 3. 1. 現状分析

ラーニング・コモンズという目標を達成する上で図書館の強みはなんだろうか。それは(1)体系的に収集、蓄積、共有された情報資源、(2)情報リテラシーを有する職員、(3)物理空間である。

弱みはなんだろうか。それは(1)学習者自身ではないこと、(2)教員ではないこと、(3)情報担当、学務担当、留学生担当ではないこと、(4)すべての情報資源が手の内にあるわけではないことである。

機会はなんだろうか。それは(1)学士課程教育の充実に関する提言、(2)情報社会及び知識社会における生涯学習の必要性、(3)基盤的経費の削減傾向である。

脅威はなんだろうか。それは(1)図書館が参画も関与もしないラーニング・クラウドの出現、(2)メディアの変容である。

#### 3. 2. 方策

効果的な学習は入力と出力を必要とする。そのため、体系的に収集、蓄積、共有された情報資源とそれを活かす情報リテラシーは、ラーニング・コモンズの共有資源になりうる。また、学習には現実であれ仮想であれ活動の場が必要である。そのため、物理空間もまたラーニング・コモンズの共有資源になりうる。したがって、方策の1つ目は、(1)情報資源の充実、(2)情報リテラシー講習会の高度化、(3)快適な活動空間の提供により、強みをより一層強くすることである。

一方、図書館には弱点も多い。しかし、これらの弱点は何でも屋ではない以上、いずれも当然のことである。したがって、これらの弱点に関しては図書館内部において充足することよりも、むしろ適切な役割分担の下、学習者、教員、関連部署、関連機関と協力、連携、協働することにより、効率的に補うことが2つ目の方策となる。

基盤的経費の削減傾向を機会と捉えることには説明を要するかもしれない。基盤的経費の削減傾向はどちらかといえば、脅威に当たる。しかし、この脅威を回避することは現在の社会情勢から見て大変困難である。その結果、経費の効率化が迫られ、協力、連携、協働の契機が生じることになり、そこに機会を見出すことができるのではないかと考える。したがって、基盤的経費の削減傾向に伴う協力、連携、協働の契機を含めた機会を意識的に活用することが3つ目の方策となる。

図書館が参画も関与もしないラーニング・クラウドの出現は大きな脅威である。ラーニング・クラウドは学内他部署で構築されるかもしれないし、学外他機関または Google や Apple、教育産業のような営利企業によって構築される可能性もありうる。また、こ

のような可能性はメディアの変容に伴って、ある日突然降って湧いてくるかもしれない。例えば、エネルギーが石油から電気へ移行するからといって、ガスステーションが電気ステーションへ移行するとは限らない。このシナリオ（＝脅威）は絶対に回避しなければならない。したがって、高い感度をもって競合他者の動向を察知し、場合によっては参画を試みるのが4つ目の方策となる。これはもともと地味ではあるが、もともと重要な方策である。

これら4つの方策を意識し、ラーニング・コモンズに命を吹き込むために図書館がなすべき行動として、次の2点を強調したい。

1つ目は、学習者が自主的、主体的、能動的に学習する能力を養成するようなソフトウェアを開発し提供すること。ここでいうソフトウェアとは、(1)文献リスト、(2)パスファインダー、(3)情報リテラシー講習会等である。(1)文献リストは知識の構造や広がりを見渡すのに役立つ。例えば、北海道大学の「北大の教員が北大生に読ませたい不朽の名著」や「本は脳を育てる」、神戸大学の「先生からのおすすめ本」等がある。(2)パスファインダーは基本的な学習方法を習得することを助ける。文献リストやパスファインダーは作成するだけに止まらず、交換ないし共有することができれば、社会における大学コミュニティの存在感を高めることに繋がる。(3)情報リテラシー講習会に関しては、ソースアプローチからプロセスアプローチへの転換が望まれる。少なくとも「Scopus 講習会」は「学術論文の探し方 (Scopus 編)」等に改めるべきである。

2つ目は、大学の基本理念、目標、計画を理解した上で、対話や協働を通して、学生のニーズや教員、関連部署、関連機関の考えを総合して、共通認識の下、支持者を増やし合意を形成して、意思を統一し結束して行動すること。非営利活動では営利企業のように収益によってその活動を評価することはできない。では何によって評価するか。それは関係者の満足度ではないだろうか。まずは1人の学生、1人の教員の満足を目指し、それを積み上げ広げていくことである。満足度によって醸成される信頼の先に、学科関連ガイダンスや情報リテラシー教育等の、教育活動への直接の関与の道も開けてくるに違いない。

#### 4. おわりに

今回のレポートでの最大の収穫は、ローマンの「コモンズ(\*4)」というコンセプトに出会えたことである。

これまで私が取り組んできた電子的図書館機能の充実・強化は、ランガナタンの「図書館学の五法則」(1)図書は利用するためのものである、(2)いずれの読者にもすべて、その人の図書を、(3)いずれの図書にもすべて、その読者を、(4)図書館利用者の時間を節約せよ、(5)図書館は成長する有機体である、の域を出なかった。1931年に発表されたこの原則が今なお健在であることは、この原則の完成度の高さを示すものであり、感嘆を禁じえない。

しかし同時に、成長する有機体でありながら80年前に発表されたこの原則の域を越えられない”もどかしさ”、どうすればこの原則を乗り越えて成長できるのかという”いらだち”も感じていた。

ローマンの「コモンズ」というコンセプトを援用すれば、サービスを提供する側とされる側という固定的な関係を超えた、自由意志による対等な協働関係を構築することができるかもしれない。そういった可能性と方向性を見出せたような気がする。

ラーニング・コモンズは、学習を目的とした自由意志により資源を共有し協働する共同体である。そのうち、協働度を評価する指標が開発されるかもしれない。また、ラーニング・コモンズ連合という共同体も生まれるかもしれない。が、まずはコモンズの悲劇が起こりうるぐらい使い倒されるものにしたい。

ラーニング・コモンズにおけるファシリテーターとして、活力ある知識社会の発展に寄与してゆければと思う。

#### 参考文献

- (\*1)海野敏, 戸田慎一. "「図書館」の社会的機能縮小の必然性: 情報流通の構造変化と図書館の存立意義". 電子図書館: デジタル情報の流通と図書館の未来. 日本図書館情報学会研究委員会編. 東京, 勉誠出版, 2001.11, p. 11-45, (シリーズ・図書館情報のフロンティア, No.1).
- (\*2)「NPO」幻想と現実: それは本当に人々を幸福にしているのだろうか? / 田中弥生 著. -- 同友館, 1999
- (\*3)電子図書館の神話 / ウィリアム F. バーゾール著; 根本彰 [ほか] 訳. -- 勁草書房, 1996
- (\*4)コモンズ: 人類の共働行為: NPO と自発的行為の新しいパースペクティブ / Roger A.Lohmann 著; 溝端剛訳. -- 西日本法規出版, 2001  
【原著】The commons: new perspectives on nonprofit organizations and voluntary action / Roger A. Lohmann; foreword by Jon Van Til. -- Jossey-Bass, 1992. -- (Jossey-Bass nonprofit sector series)

#### 参考文献

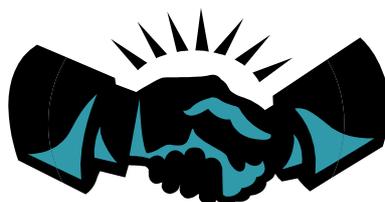
- 図書館利用教育ハンドブック / 日本図書館協会図書館利用教育委員会編; 大学図書館版. -- 日本図書館協会, 2003
- 平成 23 年度大学図書館職員長期研修 講義資料

おおつな こういち (国立民族学博物館)

#### ◆ 京都支部のセミナー企画運営に参加しませんか? ◆

京都支部では皆様に企画運営に関わっていただきたいと考えています。  
ワンディセミナー等のイベントでお手伝いいただける方を  
常時募集しています。ぜひご参加ください!!

今回の新春合同例会においても、  
当日の会場設営のお手伝い頂ける方を募集しています。  
開催時間の 30 分前に会場にお越しください。  
お待ちしております。



連続企画：わたしの図書館紹介します！

## 紹介番号 2 滋賀医科大学 附属図書館

寺升 夕希

### はじめに

図書館紹介の第 2 弾として今回は、意外に近い滋賀県の滋賀医科大学附属図書館について紹介します。

### 1. 滋賀医科大学って？

滋賀医科大学は昭和 49 年に開学し、今年で 37 周年を迎えました。学部としては医学部（医学科・看護学科）のみの大学です。現在の学生数は、医学科 585 名（6 年制）看護学科 260 名（4 年制）、大学院生は博士課程・修士課程を合わせて 152 名となっています。職員数は、大学および併設の附属病院を合わせて 1981 名です。ちなみに、この 1981 名のうち約 700 名を看護系職員が占めています。（数字はいずれも 2011 年 5 月 1 日現在）

特色ある教育・研究を目標とし、地域医療への貢献に力を入れています。最近のホットトピックは、本学の教員がイグ・ノーベル賞を受賞したことでしょう！



附属図書館外観

### 2. 附属図書館あれこれ

開学から 5 年後の昭和 54 年に附属図書館が開館しました。附属図書館開館にあたっては、近隣の大学図書館・研究機関等から多数の寄贈があったと聞いています。その後、平成 11 年に改修工事を行い、学内のネットワーク部門を統括するマルチメディアセンターを併設した現在の附属図書館が竣工しました。運営体制は、課長以下図書系職員 6 名・事務系職員 2 名です。附属図書館の構成は、1 階＝欧文雑誌、2 階＝図書および和文雑誌となっています。規模が小さいため、大学図書館には珍しく閉架書庫はありません。利用者は、どの資料も自由に閲覧することができます。



附属図書館 2 階

最大の特徴は、24 時間開館を実施していることです。前述のとおり、学生だけでなく附属病院勤務の教職員が多数いることから、通常の開館時間（月～金 9:00～20:00、土 13:00～17:00）以外の時間帯も「時間外『特別利用』」として開館しています。といっても、もちろん図書館職員が出勤しているわけではありません。利用者は、自身の利用証（学生証・職員証）をカードキーとして入退館を行います。利用できるサービスは、資料の閲覧・複写、自動貸出返却装置

による貸出・返却、情報検索です。学生さんの毎日は、時間割のようにカリキュラムが決まっており、ほとんどが必須講義です。私自身の学生時代のことを思うと、その忙しさは比べ物になりません。講義と実習とレポートに追われる日々を過ごされています。同じく、教職員においては病院で待たなしの診療を行っています。そういった経緯からも、24 時間いつでも利用できる「特別利用」は（限られたサービスとはいえ）非常に重宝されています。

なお、地域貢献の一環として、学部学生が病院実習でお世話になる近隣の病院職員にも同様のサービスを提供しています。（申請により、図書館利用証を発行）

### 3. 力を入れていること

学部学生さんに限って言えば、医学科も看護学科も最終目標は「国家試験合格」です。そのため、図書館も「国試対策コーナー」を設置しサポートしています。いずれの図書館でも同じ悩みを抱えていると思いますが、資料購入費は年々減額される一方です。けれども、「国試対策コーナー」で使用する資料に関しては、毎年度の試験問題集・出題基準や改版される資料など更新の必要が多いため図書館の資料購入費とは別に、他の予算枠から一定額を確保しています。

また、図書館職員の独自企画として定期的に所蔵資料のミニ展示を行っています。ミニ展示は、緊縮財政のため希望どおり新しい資料を購入できない中、現在所蔵している図書に目を向けてもらおうと企画したものです。タイトルがわかるよう配置することにより、利用者に手にとってもらいやすくなりました。4 月には新入生歓迎企画、長期休暇前には読み物特



2011 年 4 月実施 新入生歓迎企画

集、学園祭シーズンには学生さんとのコラボ企画など、様々なジャンルで展示しています。展示した資料がたくさん貸し出されているのを見ると、ミニ展示のやりがいを感じます。ささやかな催しではありますが、今後も継続していきたい企画です。

#### 4. 医学図書館員として

医学図書館と聞くと、「扱う資料が難しそう」「利用者の対応が大変そう」といった感想をお持ちの方がいらっしゃるかもしれません。確かに、利用者が必要とする資料は特殊で、入手が困難な場合もあります。何となく敷居が高いように思われるのも無理はありません。ですが、全国の多数の医学系図書館が加盟している「日本医学図書館協会」では各種研究会・研修制度がとても充実しています。医学図書館員として必要な情報を基礎から学ぶことができます。私も何度かこういった研修に参加する機会をいただき、非常に勉強になりました。今後も、現状に甘んじることなくスキルアップに努めたいと思います。

(参考：日本医学図書館協会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jmla/>)

#### 最後に

規模の大きくない図書館で仕事することの良さは、「いろいろ経験できる」ことにあると実感しています。日々、資料管理から利用者サービスまで、少ない人数でカバーしていますので、相談・協力し合うことが大切です。これからもそういった体制を維持していきたいと思っています。

てらます ゆうき (滋賀医科大学附属図書館)

#### ◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2011年度(大図研会計年度2011.07-2012.06)に入っておりますので、2011年度の会費の納入をお願い致します。また、2010年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

**会費は、¥7,000 (大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000) です。**

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

**郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部**

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (kyoto@daitoken.com) まで。